

なんもく 山村ぐらし通信

2015(平成27)年8月発行
通巻第14号版(夏季号)

発行責任者: 金田 鎮之
問合せ 南牧村役場
村づくり・雇用推進課
電話 0274-87-2011(代表)

紙面編集: 協議会広報班
発行元: 南牧山村ぐらし
支援協議会



協議会QRコード

協議会HP
<http://nanmoku.org/>
古民家バンク情報がサイトに
内に移設されました。

27年度4~6月空家問合件数

電話による問合せ9件
(4月 3件)
(5月 5件)
(6月 1件)
【参考】26年度年間
78件

メール・手紙・FAXでの
問合せ11件
(4月 5件)
(5月 2件)
(6月 4件)
【参考】26年度年間
49件

現地物件見学案内4件
(4月 3件)
(5月 1件)
(6月 0件)
【参考】26年度年間
空き家見学29件
来村・来庁 35件



会場の受付係はぐんまちゃん。

第一回ぐんま暮らし相談会

5月27日(水)第一回目となる「ぐんま暮らし相談会」が、東京都中央区銀座「ぐんま総合情報センター(通称:ぐんまちゃん家)」で行われました。参加団体は、群馬県、桐生市、沼田市、昭和村、みなかみ町、南牧村でした。移住相談はもちろんです。就農相談や就職相談も行われ、平日の昼間の時間帯での開催にもかかわらず、23組29名が

来場し、延べ相談件数は56件となりました。就労相談に見えた若い方から定年後の移住に向けて考え始めているという方まで、多くの方に御来場いただくことが出来ました。その中の3組の方が、南牧村への移住を考えている方でした。相談者は、南牧の山や川にすぐく魅力を感じて、移住先の候補地として選んでいました。地域の状況などを説

明していく中で、住民同士の助け合いや、世話好きな村民であることも理解していただけました。村内・古民家物件の説明では、農家物件に憧れていたらしく、囲炉裏のある物件や薪ストーブ、広い土間に目を輝かせていました。すぐに住めるわけでなく改修する箇所が多く、改修費用が掛かることに頭を悩ませる場面もありましたが、夏には自然との触れ合いを楽しみながら遊びに訪れたいと話し、その場を後にしていきました。また、別の相談者は、観光で群馬県を度々訪れている方で、移住するのなら群馬県内と決めているそうで、会社を定年したのちに家庭菜園をしながらの田舎暮らしを考えている方でした。今年度移住相談会は、東京都内を会場に計8回予定されています。田舎暮らしに興味がある方は、ぐんま暮らし相談会に来てみてはいかがでしょう。移住するなら都心から近い群馬県で「ぐんま」でちょうどいい暮らし。ぐんままでちょっといい暮らし。「山村地域の田舎暮らしなら、南牧村の暮らしは



賑わう会場内の様子

しなら、南牧村の暮らしは
いかがでしょうか。現地
取材・石井特派員

からしだね

『南牧村には素晴らしい子育て環境がある!』
児童・生徒数が減少する中
にあつて、不思議と村の子
供たちの教育環境を評価す
る声を聞くことがありま
す。減少する子供たちを取
り巻く環境はデメリットが
多くなつていても不思議で
はないのですが、この村が

田舎での生活に憧れ、4月にやってきた新米南牧人・賀籠六(かごろく)です。私は、日本各地を路線バスで旅することを趣味としています。今回は、役場の前にある南牧役場前から熊倉バス停までバスに乗車し噂の「人面石」を見にぶらりと行ってきました。役場の前には南牧役場前のバス停から13:55分の熊倉行のバスに乗車。バスの中は、すでに何人か乗っていて、下仁田方面からの買い物や病院帰りのお客さんで賑わっていました。と言ってもバスは13人乗りですが...。普段は仕事もプライベートも車での移動がほとんどとなり、久しぶりのバスの車内では地元の人同士の楽しそうな世間話、また、運転手とお客さんとのコミュニケーション。バスの車内が家族のような温かい雰囲気でした。小さな山村ならではの車内風景だと思えます。ほとんどのお客さんは、役場の隣の集落である六車地区で下車し、気がつく

“ぶらい”なんもく村

in 熊倉の人面石~賀籠六(かごろく)が行く!~



こんな岩が転がっているんです!

と私と運転手さんだけになっていました。役場から20分、勸能バス停に到着。ここでほとんどのバスは折り返しますが、今回乗ったバスは熊倉まで行くバスでしたので終点まで向かいます。勸能から熊倉まではさらに道が狭く山も険しくなり、5分程走ると終点の熊倉バス停に到着します。ここから、さらに西へ徒歩で進み人面石に向かいます。しばらく沢沿いに歩いていくと、最近の仕事で製作し取り付けを行った手製の『人面石』の看板が見えてきます。ここは以前の大災害の際に転がってきた石が顔のように削れてきた石だといわれています。南牧の路線バスに興味深いものです。南牧の路線バスに乗って見て、車がない人の不便さや、バスに乗車している地元住民と直にふれあうことができ、とてもいい経験をしました。みなさんも、南牧バスにのって南牧村を旅してみませんか?
〜新米南牧人・賀籠六(かごろく)がお伝えしました〜
ん。比例して少なくなる保証もありません。この村の子供たちのためにも、

<協議会からお願い>

南牧村では
**村内の使用されなくなっている
 民家・古民家・休耕地の有効活用を**
 積極的に進めています。

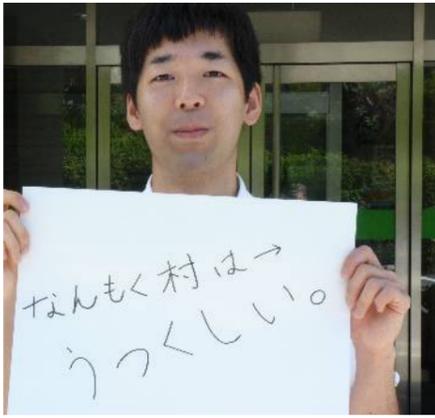
南牧村のこれからの希望のために

ご理解とご協力をお願いします。

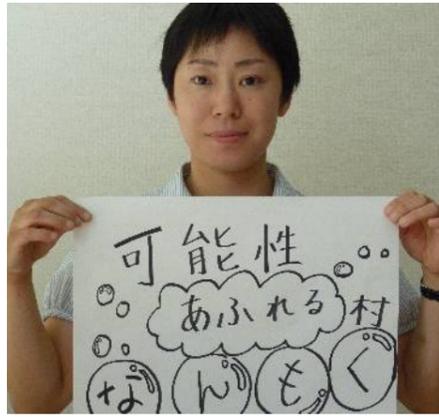
※情報は役場・村づくり雇用推進課

までお願いします。

new! 協議会メンバー紹介



おとぼけ田中くんも地域おこし協力隊
 じつは英語がペラペラの国際派南牧村民!



爽やかな笑顔と行動力が魅力的な
 地域おこし協力隊の柳沼さん



丸みを持った躯体でよくしゃべります!
 地域おこし協力隊の賀籠六・通称カゴくん

夕日・月形中学校校舎と講堂の今昔

〜月形中学校校舎と講堂の今昔〜

現在の南牧中学校の様子を思い浮かべてみてください。現在の南牧中学校は講堂と校舎が離れていますが、昔の校舎は講堂と隣接していたことを発見!昔を知らない人には想像できないと思います。写真も用意しましたのでご紹介いたします。今回の紹介は、月形中学校編です。

昔の写真があるかなと思いい、閉校記念誌などを見ていたところ、この写真を見つけました。

昔の校舎も今の位置にあると思いい見ていたところ、昔の写真の右側にある建物もなんか見たことのあるつくりだなと思いい今の写真で建物を確認すると...なんと「講堂」ではありませんか!ということは講堂は動いてないのですから、昔の校舎は今のテニスコートがある位置にあったと初めて知りました。

月形中は、昭和63年3月(昭和62年度)に閉校となり、4月から南牧中(尾沢中と月形中の統合)として新たな歴史を刻み、現在に至っています。



現在の南牧中学校
 昔はあんなところに校舎があったんですね。



写真が粗くてすみません。
 右建物が今も南牧中学校に残る講堂。
 左側に見えるのが旧月形中学校校舎となります。

月形中学校 校歌

- 一、うるわしき 風よ光よ
 まなびやの 窓は明るく
 えぼし岳 緑かすみり
 ああわれら 学び修めて
 新世の 真理たずねん
- 二、南牧の 流れひびける
 まなびやの 青き木立に
 はつらつの 生命おどれり
 ああわれら からだきたえて
 新世の 鐘をならさん
- 三、かぐわしき 花よにおいよ
 まなびやに なごみあふれて
 名もゆかし 月形の里
 ああわれら 願ひひとすじ
 新世の 幸を祈らん

〜月形中卒業生のみなさん〜
 懐かしい月形中学校の校歌はいかがだったでしょうか?思わず口ずさんでみた方も多かったのではないのでしょうか。こんど同窓会等で歌って見るのも良いかもしれませぬ。

〜記事担当:ヒロシです:ヒロシです:ヒロシです:〜

草木萌動

〜そうもく・めばえいずる〜

この度、大日向・宮ノ平地区村営の古民家をお借りすることとなりました日向プロジェクト代表の五十嵐亮です。南牧村に移住してからまだ三年の未熟者ではありますが、南牧村の生活の素晴らしさをもっと多くの方々に知ってもらいたいと、村人生活が浅いながらも何か出来るコトを...と足らない頭を振り絞って考えてみました。その結果、僕自身が又は僕達を感じる南牧村の一生懸命なヒト・美味しいモノ・村の歴史的なコトを紹介や発信をしていく為の企画を作っていました。そして沢山の方々の協力を経て日向プロジェクトというものを作り上げ、その企画をトヨタ財団の事業「国内助成プログラム」に応募しました。結果、企画を認めて頂き、資金面と企画補助面での支援を2年という期間を通して支えて頂ける運びとなりました。

純粋に南牧村の素晴らしさを伝えたい一心で古民家をお借りし、季節を表す言葉「七十二候」から「草木萌動(そうもくめばえいずる)」若い芽がゆつくりと動き出すという意味にイメージを湧かせ古民家に呼称を付けました。“そうもく”

などと呼んで頂ければと思っております。僕達日向プロジェクトの目的は古民家を拠点とし、南牧村のヒト、モノ、コトを村外・県外の方々とツナグことです。正直言いまして、この活動がどれだけ効果を与えることが出来るか判りません。どれだけの方々に理解してもらえれるかも判りません。そして、どれだけ美しいヒト、モノ、コト、をツナグことができるのかも判りません。ですが、これは僕達の頂いた大切な機会であり大切な経験の時間だと深く思っております。沢山失敗もすると思いますが、日向プロジェクトの変わりぬ目的は南牧村の素晴らしさを経験や僕達の成長を通して少しずつと伝えていくことだと思っております。文章で伝えきれないことは実践や実績を通してご理解頂ける様、努力していきますので、どうか長い目で見守って頂ければ幸いです。先立ちまして「草木萌動」一階に、地産地消のカフェが7月17日にオープンしております。お時間のある時、又はお散歩の途中にお立ち寄り頂ければと思っております。又、2階部分の工事は年内平行して行なう予定となっておりますので、完成をお楽しみにして頂ければと思っております。どうか宜しくお願い致します。

大輪の火とぼしを舞おう



云わずと知れた大日向地区の「火とぼし」。ながく地域住民の手によって伝えられ継承されてきた県内最大級の火祭り。見事な円を描く廻し手には経験と技量が求められます。そんな廻し手役を地域住民以外の方にも少しづつ開放し、経験してもらおうという取り組みはすでに数年来続いています。当然危険が伴いますのでどなたでもという訳にはいきませんが、当日現場で希望を伝え、自己責任をご理解いただければ、あの勇壮な火とぼしの舞を体験することが出来るかもしれません。そんな私もいつの日かいつぱしの廻し手になることを夢見て...

〜大日向在・湊山氏投稿〜